

ジュラーヴリ

ЖУРАВЛЬ



事故から22年の チェルノブイリ被災地へ代表訪問

救援カンパと皆さんの思いを届けてきます！

12月2～7日、ベラルーシの被災地に救援・交流のため、事務局から振津が代表訪問します。今年の訪問も、1週間足らずの「駆け足」の訪問ですが、皆さんから託された救援カンパ、お便り、おみやげなどを持って、毎年訪問している支援先—首都ミンスクのマリノフカの「移住者の会」、モギレフ州の汚染地では、クラスノポーリエの学校・幼稚園・子ども保護施設・病院・障害児センター、チェリコフの幼稚園・子ども保護施設、ベリニチの寄宿学校—を訪問します。

今年の夏には、皆さんから寄せていただいたカンパで、ロシア・ブリャンスク州の NGO 「ラドミチ」と協力し、ロシアの非汚染地域にある「ノボ・キャンプ」での保養に、クラスノポーリエの子どもたち4人を初めて送り出すことができました。キャンプに参加した子どもたちにも直接に会って、感想などを聞いてこようと思います。そして、来年以降も継続してこのキャンプでの保養を続けるべきかどうか、改善すべき点はないかなど、小児科医のベーラさんとも話し合ってきました。

事故から22年を経た現時点での、チェルノブイリ被災者の健康と生活、またベラ



昨年訪問時に、手紙を託してくれた「ブラレスカ」の子どもたち。今年は日本の子どもたちからのお便りを届けます。

ルーシ政府の被災者への施策の現状などを見聞きし、今後の支援のあり方を話し合ってきます。事故後に生まれ育った若い世代が「チェルノブイリ」をどう受けとめているか、私たちとチェルノブイリ・ヒバクシャとの交流の活動に、現地の若い人々も参加して担ってもらうには、どうしたらいいかなども、共に考えたいと思います。また、気がかかっている、ベラルーシでの原発建設計画のその後の動きも調べてきたいと思います。

帰国後、12月14日「発足17周年の集い」(8頁参照)で訪問報告をします。皆さん、ぜひご参加下さい！ 引続き、支援カンパよろしくお願ひします！

(ふりつ)

～戦争はいやや！核なんかいらへん！～

2008年 東南・反核フェスティバル 今年も参加しました！



長辻 幸

去る9月21日、今年も長居公園で「東南・反核フェスティバル」が行われ、私たち救援関西も参加しました。この日は朝から曇り空で、「なんとか天気もってくれれば」と思っていた矢先、準備の途中に通り雨が……。天気が心配される中での反核フェスとなりました。

救援関西は例年どおり、お店と舞台の両方で私たちの活動をアピールしました。お店ではかわいいベラルーシグッズ（今年はベラルーシ訪問がまだなので、新しいグッズは「入荷」待ちでした）と、田中さんお手製のとってもおいしいケーキを販売。店番をしていたメンバーの頑張りもあって、売行きは予想よりも上々(?)でした。今年のベラルーシ訪問の救援カンパに少しは貢献できたかな？

そして、舞台でのアピールには、オペレッタ歌手の森田留美さんに登場していただきました！森田さんに3曲（そのうちの1曲は詩の朗読とのコラボレーションで）歌っていただき、歌で「チェルノブイリを決して忘れないで！」とメッセージを伝えました。森田さんが歌っているとき、会場は一時、オペラハウスに……。



実は、舞台でのアピールが始まる前、森田さんからある要望がありました。「3曲目の歌を私が歌っている後ろで、みんなでステップを踏んでほしいの！」メンバーは、「えっ、えー！？」。その後、森田さんの特訓を受けて練習しましたが……。いざ、3曲目でステップを踏んだ4人の「ベラルーシから来たと思われる(?)娘さん」もこれには参りました。最後の曲であったにもかかわらず、締まりが悪くなってしまい、やっぱり「にわか練習」ではダメだと痛感しました。(森田さん、本当にごめんなさい。)こんな舞台裏もありましたが、森田さんの歌声は本当に素晴らしく、たくさんの方がその歌声に魅了され、聞き入っていました。私たちのメッセージは森田さんの歌に乗って、聞いて下さった皆さんに届いたのではないかと思います。

きっかけはどんな形であれ、私たちの活動や思いをより多くの人に知ってもらおうという意味で、この反核フェスはとても貴重な場の1つです。「核なんてこの地球上に必要ない！」という同じ思いを持った人々が異なる視点からそれぞれのメッセージを伝え合い、共有できる場として、この反核フェスとこれからもお付き合いできればいいなと思っています。今回も救援関西のメンバーがそれぞれの「得意分野」で頑張っている姿を見ながら、私自身、とても楽しくフェスティバルに参加することができました。



開会の挨拶をされる山科さん

救援関西のお店



聴衆を魅了した森田さんの歌と演奏



長辻さんの朗読と森田さんのピアノで、息の合ったコラボレーション。



森田さんの「指導」で、ダンスのステップ…でも、いまいちリズムに乗れてない？

チェリノバイリはがき大作戦

井上和歌



2007年12月2日の”つどい“で、新しいポストカードの山を見た私は、このはがきを買って使ってばらまくことこそ私の使命!?と奮い立ちました。ここ10年、かなりのはがきマニアになっていた私にとって、このかわいい7枚のはがきを知り合いに出すだけではおさまらない!よし!2008年の年賀状はこれだ!とその場で決意。いくらアナログ人間でも年賀状は、たとえ手書きで添え書きはしても表裏パソコンというスタイルになっていたのに、どうみてもプリンターに通いそうにないしっかりした紙質、縦横さまざまで裏面に地図まであるのでメッセージは消せない、はがきマニアだけあって200枚ではきかない枚数—「無謀」という2文字がちらっと頭をかすめたけれど、決意はすぐに30セット(多分…)購入という行動に移り、その晩から年賀状作成開始。

チャーミングだけれど全然年賀状らしくないはがき—ですが、形式的であっても怒る人はいない年に一度の挨拶に、こんなユニークなはがきをもらったらきっとたいがいの人は喜んでくれるのでは?と思いました。年賀状らしくするために、年賀切手を貼り「年賀」「賀正」のスタンプを押し筆ペンで宛名を書き……一枚ずつ来る日も来る日も続け、年賀状の欠礼の方に対してのお悔やみのはがきにも使い……総数258枚になりました。

その前後にも友人には‘協力’してもらい、プレゼントし、日々日常に使いました。

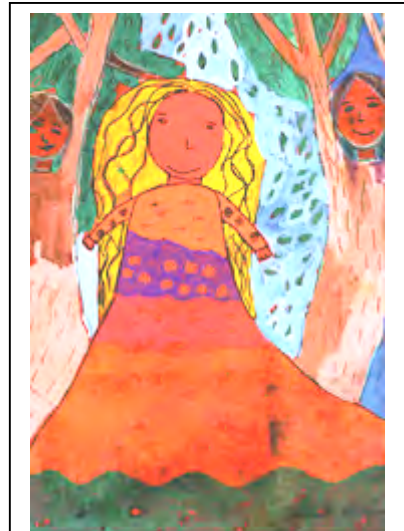
そして今年7月、更なる挑戦—生徒(中学国語教師をしているのです)にも!!!数年前から、「書写」の一環で暑中見舞いや年賀状の「はがき」を私に書かせ、テストに出題し、私がちゃんと《郵便で》1人ずつ返事を書く、という授業をしていたのですが、今までは宛名と住所、添え書き以外はパソコンでした。けれどあの膨大な手作業も楽しくできたはがきマニアの私、それに今こそ「チェリノバイリ」を伝えられる—一人名なのか地名なのか大人も知らない「チェリノバイリ」のことをはがきの説明をする中で伝えよう…「チェリノバイリ」を忘れても「チェリノバイリ」のはがきはしばらくは生徒の手元に残り、ついでに田中さんがいつも作って下さったビーズのアクセサリー(よくバザーで買ったといっているのです)は私が身につけ、長崎(修学旅行で行きます—我が校の平和学習は原爆が中心です)とは「放射能の害・ヒバク」ということにつながっている、「今・現在の」「地震国日本」のことであることはそのうちにわかってくれるだろう

…と暑中見舞いのはがきを書くことに。ついでに大人にも少し（年賀状に比べたら）書いて、8月末現在で380枚になりました。ちなみに、生徒からのはがきは、近くの郵便局に2週間展示してもらおうのですが、私からの返事ということでこのポストカード7枚と裏面を拡大コピーしたのもも展示します。地域でのささやかなアピールになるかなと思います。

「チェリノブイリはがき大作戦」は、

1. 7枚入りのセットを友人・知人に買ってもらう。人間関係を損ねない程度に。
2. プレゼントする一ちょっとしたお土産、お祝い、お礼など。お菓子などより軽くてかさばらず、しゃれています。いつも持ち歩いているといいです。
3. 何の用事もないとき、久しぶりに親戚や旧友・もちろん今の友達にはがきを書く。はがきは手軽で秘密がないので《文面が全開です》相手も軽く受け取ってくれるし、ほぼ100%喜んでもらえます。
4. しかるべきところー役所やマスコミに書く。

…などこれからもできるだけ日常的に続けるつもりです。



子どもたちの「絵はがき」
7枚セットで600円です。
あなたも「絵はがき大作戦！」
やってみませんか？！
ご購入希望の方は下記まで。
0797-74-6091（たなか）
cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

ベラルーシ関連 "ニュース・クリップ"から... by ともゆき

9月28日に行われたベラルーシの下院選の結果ですが、野党獲得議席はゼロだったようです。ベラルーシ内務省によると首都ミンスク中心部で選挙の不正を訴える抗議集会が開られ、約300人が参加、一部は無許可でデモ行進をしたが警官隊は手を出さずに見守り、混乱なく終わったとのこと。下記はそれに関する記事サイトで現場の写真9枚も閲覧可能です。<http://www.afpbb.com/article/politics/2522644/3382479>

ベラルーシ下院選、野党獲得議席ゼロ

【9月29日 AFP】28日に投票が行われたベラルーシ下院選（定数110）で、同国中央選管は中間集計の段階で、野党候補の当選はないと発表した。開票は29日現地時間午前10時（日本時間午後4時）に終了する予定だが、99議席までの段階で当選者はすべて与党系候補だと、Lidia Yermoshina 選管委員長が明らかにした。首都ミンスク（Minsk）中心部には28日、選挙の不正を主張し、大統領退陣を要求する有権者数百人が集まった。横断幕には「不正にノー」「独裁者はごみ箱へ」「ロシア軍基地にノー」といったメッセージが掲げられた。親ロシア派のアレクサンドル・ルカシェンコ（Alexander Lukashenko）大統領について、米政府は「欧州最後の独裁者」と呼んでおり、旧ソ連国ベラルーシと欧米諸国との和解の先行きが危ぶまれる展開となっている。

(c)AFP/Ursula Hyzy

米国発の金融危機は、アジアや欧州などの新興国にも影響しています。そして、その飛び火はベラルーシにも及んでいるようです。10月22日にインタファクス通信が報じたところによると、ベラルーシ政府と中央銀行は、国際通貨基金（IMF）に対し、融資を要請しました。これに、IMFは何らかの対応をとる姿勢を示しています。ベラルーシの国内政治も問題ですが、IMFの構造調整プログラム(SAPs)に縛られ多国籍企業に「売られてしまう」問題も大変重いと思います。「毎日新聞」の記事を紹介します。

ベラルーシ：IMFに20億ドル融資を要請（毎日新聞,2008年10月23日）

インタファクス通信によると、ベラルーシ中央銀行の報道官は22日、中銀とベラルーシ政府が国際通貨基金（IMF）に対し、世界的な金融危機の影響を受けた経済の安定化のため20億ドル（約1970億円）の融資を要請したと述べた。ベラルーシ経済は、金融危機などのため景気が急速に悪化している隣国ロシアへの食料品輸出が激減するなどして打撃を受けているという。（共同）

<http://mainichi.jp/select/biz/news/20081023k0000e020016000c.html>

♡救援関西の新しい”リーフレット”ができました!!♡ ぜひご活用下さい！

「救援関西」の活動を紹介するリーフレットを刷新！若者のセンス(?)で、地図や写真も入って、すっきり、読みやすいものになりました。(デザイン、製作を担当してくれた佐々木良太くんに、感謝!) バザーの時や、周りのお友達に、「救援関西」の活動を紹介するために、ぜひご活用下さいませ。多数ご入用の方は下記までご一報下さい。

<cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp> tel&fax:0798-44-2614 (ふりつ)

これまでの活動内容

わたしたちは、チェルノブイリ原発事故から5年目の1991年に発足しました。以来、年に1度は被災地であるベラルーシを訪れ、病院、学校、幼稚園、子ども保護施設などを訪問しています。そして、みなさまからいただいた救援カンパやメッセージをお届けし、被災地の方々との交流を深めています。

ここのラインで折って、三つ折りにして使うのだそうです…

首都ミンスク市

マリノフカ地区には、ベラルーシ各地にある汚染地帯から、1万人あまりの移住者が移り住んでいます。家族の病気、失業、差別からの差別など、住み慣れた故郷を捨てた都会での「自分からの生活」は想像以上に困難です。わたしたちは、お互いに助け合っでつこうと結成された地域の「移住者の会」と交流を持ち、支援活動を行っています。

モギレフ

これからの活動予定

- 11月末には、わたしたちのメンバーがベラルーシを訪問し、救援カンパや皆さんからいただいたメッセージをお届けします。
- 12月14日(日)13時30分から「エルおおさか」にて、わたしたちの発足17周年の集いを催します。今年のベラルーシの被災地訪問について、写真などを交えて報告します。
- 不定期ながら機関誌「ジュラブリ」を発行しています。各地での支援の催しや、ベラルーシのホットな話題などをお知らせします。

チェルノブイリ原発事故って?
1986年4月26日、ウクライナ共和国のチェルノブイリ原発4号炉が爆発して、大量の放射能(広島原爆の約600倍)をまきちらしました。原子炉から半径30キロメートルの範囲や300キロメートルも離れた高汚染地域が永久に居住禁止となり、500もの町や村が消え、40万人もの人びとが放逐を余りました。現在も汚染地域には600万人以上の人びとが暮らしています。現地では、甲状腺ガンをはじめ様々な病気が増加しており、その確率はいまでも高いです。
*セシウム137 0.8Bq

日本の報告会

ベラルーシでの救援活動について毎年報告会を開催し、人びとの暮らし、医療現場や子どもたちの「声」の今について報告します。また、数年の各地で講演・交流会など催しています。予定は随時しますので、ぜひご覧ください。—— <http://www.cherno-kansai.jp/>

救援キャンペーン

粉ミルクやベビーフード、ビタミン剤を届ける「Eキャンペーン」や、汚染のない土地で子どもたちのまする「保養キャンペーン」など、被災地の力をかためていただけるよう、さまざまな救援キャンペーン気軽にお問い合わせください。—— cherno

チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西からのお願い

わたしたちの活動は、救援カンパによって支えられています

救援カンパはチェルノブイリ被災地の方々、特に子どもたちの健康的な生活を支えるための資金として活用させていただいております。例えば子どもたちの治療やリハビリ、健康の維持・回復のための保護、学用品の購入などです。近年ベラルーシ国内の事情により、日本からの救済物資の輸送が困難となりました。救援カンパは粉ミルクやベビーフードの現地調達費としても役立っております。皆さまの温かいご支援のほど、よろしくお願いいたします。

救援カンパ郵便振替：00910-2-32752

チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

—わたしたちは、チェルノブイリ原発事故によって被災したベラルーシ共和国での救援活動を続けています。近年、国の財政難などを理由に被災者への施策が徐々に廃止されています。事故は過去のものではなく、「チェルノブイリ」の傷として人びとの心から消えることはありません。わたしたちは被災者の方々との交流を通じて、物的支援だけでなく、心の支援にも取り組んでいきたいと思ひます。

〒546-0031
大阪府東淀川区田辺1-9-12 山崎方
電話：0798-44-2614(ふりつ)
もしくは：0797-74-6091(たなか)
Eメール：cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp
HPアドレス：<http://www4.ocn.ne.jp/~hope/>

まだ「試作」ですので、ご意見などありましたらお願いします。

